

第 1 回会議の議事録
(平成 30 年 1 月 25 日開催)

平成 30 年 3 月

南 城 市

1. 「おでかけなんじい」の運行・利用状況について

番号	委員	事務局
1-1	13 時台は利用人数が少ないが、この時間帯の予約断りが多いのはなぜか。	この時間は、乗務員の交代に時間になっており、そのため、前後の時間帯に予約をお願いすることが多くなっている。
1-2	観光客の利用が少し増えているが、どのような利用が多いか。	民宿での宿泊者の夕食や、斎場御嶽から馬天入口バス停までの移動などがみられる。観光客の割合は 1 割弱。 →資料③P8～9 に関連資料
1-4	運賃収入の内訳（現金・回数券）や、経費についても整理してほしい。	→資料③P4 に整理

2. 小・中・高校生アンケート調査（結果）について

番号	委員	事務局
2-1	高校までバスで通学できる地区、できない地区をアンケートから集計してほしい。	→資料⑤P8 に整理
2-2	送迎の多い小・中学校で徒歩通学を促す取組は行っているか。	校区が広い地域や、坂が多い地域は送迎が多い。教育委員会や学校から、特にはたらきかけは行っていない。

3. 先進事例の視察（結果）について

番号	委員	事務局
3-1	コミュニティタクシーが運行されているようだが、導入の経緯や現状などがわかれば、教えていただきたい。	路線の統廃合を進める中で生じた空白地域をカバーするために運行しているようだ。宇部市では、地域で運行主体を立ち上げ運行している。
3-2	コミュニティタクシーは参考にしている程度なのか、可能性としてあると考えているのか。	地域での運行は難しい点もあるため、現時点では参考として扱っている。

4. 地域公共交通再編の考え方について

番号	委員	事務局
4-1	特定旅客運送事業者等についての記載があるが、道路運送法 27 の 3 に定められているということか。	道路運送法ではなく、地域公共交通の活性化及び再生に関する法律を指している。
4-2	認定申請が 2019 年 6 月で、10 月から再編実施という予定を組んでいるが、実際は認定までにかかなり時間がかかっている。事前に素案をつくると思うが、本会議や、国土交通省に諮りながら前倒しで作業をお願いしたい。	ご指摘を踏まえ、前倒しのスケジュールで検討していく。
4-3	再編後の「おでかけなんじい」の位置づけはどのようになるのか。支線バスと役割が重複するのではないか。	再編後の「おでかけなんじい」の位置づけは、網形成計画にも示しているように、支線バスを補完する形で運行していく。支線バスが走らない地域、坂道が多いところをカバーする。
4-4	「高齢者」や「福祉」という視点で再編の考え方を検討してほしい。	ご指摘を踏まえ、表現を見直したい。 →資料⑤P1 等
4-5	乗り継ぎの抵抗を減らすためにも、定時性がどの程度、担保できるかを早めを確認しておいた方がよい。バス事業者の協力を得ながらバスロケ等のデータ収集を始めた方がよい。	支線バスに関しては、実際に車を走らせて、バス停との時間を測りながら時刻表案を作成している。支線バスの定時性はあまり問題ないと考えている。 幹線バスの定時性については、那覇の渋滞の影響を受けるため、今後把握していく。
4-6	ビッグデータは、那覇に行く OD がなく違和感がある。	今回は、生データをそのまま使用している。年代等を補正して、あらためてご報告したい。
4-7	佐敷北から佐敷南への移動が多くなっているが理由は把握しているか。	現時点では把握できていない。パーソントリップの集計結果を参考に補正する。
4-8	「おでかけなんじい」を無償化する場合、公共交通会議で決定されるのか。	基本的には本会議に諮ることになると思う。
4-9	現在、安座真から久高に渡る人は、どういった目的で利用されていることが多いのか。	観光客も多くなっており、観光客と島民の両方が利用している。船を大きくする計画もある。
4-10	南城市へは、観光客が 300 万人来ているので、観光の立場から、具体的な再編の検討の考え方の案として、観光の利便性についても入れてもらえないか。	斎場御嶽や安座真サンサンビーチ、おきなわワールドへの支線の運行も検討している。